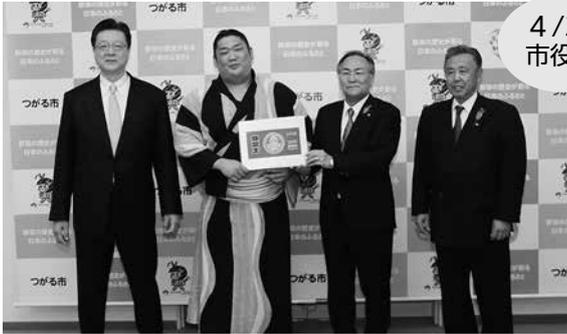


## 尊富士関 優勝報告!!

4/30  
市役所



倉光市長から記念のオリジナルタオルを受け取る尊富士関



中学時代に指導を受けた恩師の越後谷清彦さんとがっちり肩組み

この日、大相撲春場所で110年ぶりに新入幕優勝を果たした尊富士関（木造中出身）と、師匠でつがる市名誉市民の伊勢ヶ濱親方（元横綱旭富士、つがる市出身）が倉光市長へ凱旋報告に訪れました。

市役所の玄関ホールに尊富士関が笑顔で登場すると、集まった人たちから大きな拍手と歓声が沸き起こりました。

尊富士関は「つがる市は木造中時代、越後谷監督に厳しい環境の中鍛えていただいて、常に上を目指してやってきた場所。その経験が幕内優勝という結果につながったと思っている。また、こうして皆さんの前で報告し、笑顔が見られて本当に嬉しい」と話しました。

また、大相撲つがる場所（つがる市市制施行20周年記念）の開催に伴い、伊勢ヶ濱親方からは「ぜひ皆さんで盛り上げてほしい。うちの部屋の力士の宝富士や錦富士もくるのでよろしくお願いします」と話しました。

倉光市長は「改めて優勝おめでとうございます。110年ぶりの偉業達成を本当に嬉しく思います。また、夏巡業のつがる場所についても、皆さん生の尊富士関を見たいと楽しみにしていると思うので、まずは体を万全にしてほしい」と話しました。

## 皆さまの善意に感謝します

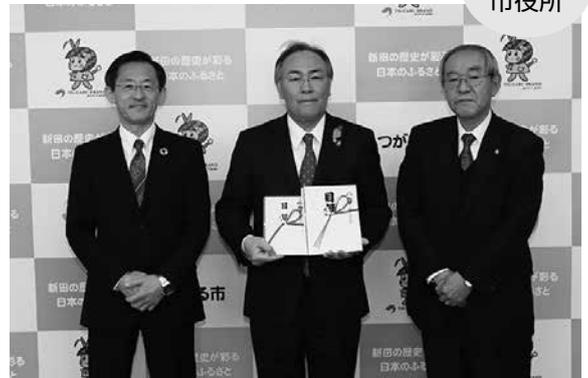
5/7  
市役所

株式会社青森銀行（石川啓太郎取締役頭取）は、株式会社協同開発舗装（増田教正代表取締役）の私募債発行を記念し、市へソメイヨシノの苗木1本を寄贈。関連会社の伊藤鉱業も桜の植樹に役立ててもらおうと市へ90万円を寄付しました。

同行では、あおぎんSDGs私募債「未来の創造」を発行する際に受け取る手数料の一部（私募債発行額の0.2%相当分）を拠出し、地域の学校や児童福祉施設、自治体等へ金品を寄贈しています。

私募債を発行した同社の佐々木互監査役は「桜が咲く美しいまちにすべきという市の取り組みに賛同し、ソメイヨシノの植樹のために使ってもらいたい」と話しました。

倉光市長は「地元の企業、金融機関にご協力いただき非常に心強く思っています」と感謝しました。



目録を手渡した青森銀行谷津大輔常務執行役員（左）と協同開発舗装佐々木互監査役（右）

5/9  
市役所



赤石会長（左から2人目）と長内会長（左から3人目）

抗がん剤治療の副作用による脱毛の際などに使ってもらいたいと、ケア帽子の普及を進める「わた帽子の会」赤石敏子会長が、市に手作りのケア帽子を31点寄贈しました。

寄贈されたケア帽子は、タオル生地をはじめ、浴衣生地やニット生地など、季節や服装に合わせて気軽に使用でき、色や柄もさまざま。

この日、がん患者支援団体「ろくつがるの会」長内道子会長と一緒に市役所を訪れた赤石会長は「この帽子があるので安心して治療にあたってほしい」と話しました。

ケア帽子は市役所国保年金課と健康推進課（市民健康づくりセンター）に展示しています。希望者にはその場で直接お渡ししていますので、お気軽にお声がけください。

## まちをきれいに 各地で清掃活動

車力警察官駐在所連絡協議会、交通安全協会車力支部合同主催の「第21回クリーン作戦in車力」が行われました。

ごみ拾いには、ほかに市防犯指導隊車力支隊や車力交通指導隊、車力中学生など45人が参加。むらおこし拠点館「フラット」周辺では、道路沿いの草むらに捨てられた大量の空き缶やペットボトルなどを拾い集めました。

参加した車力中3年生の佐藤慧珠さんは「ごみを拾って地元がどんどんきれいになってうれしい。これからも積極的に参加したいです」と話しました。



道路沿いの大量のごみを拾う生徒たち



側溝のごみを丁寧に拾い集める生徒たち

森田小学校と森田中学校、森田養護学校が初めて3校合同でつがる地球村やその周辺の清掃活動が行われました。

清掃活動には、3校に加え、森養ひまわり応援隊など約90人が参加し、地元の観光地周辺をきれいにしようと、草むらや側溝に捨てられたたばこの吸い殻や空き缶などを丁寧に拾い集めました。

参加した森田小6年生の原田芽里さんは「きれいな場所なのでポイ捨てはしないでほしい」と話しました。

木造コミュニティ実行委員会（白戸英行会長）が主催し、市金融団や市ボランティア連絡協議会などと協力し、「ごみゼロ運動」が行われました。

当日は天候にも恵まれ、参加者たちは歩道や草むらなど隅々まで目を光らせながら、環境美化への取り組みの意識を高めていました。参加者たちは、地域の美しさを維持することの重要性について話しながらたくさんのごみを拾い集めました。



早朝からごみ拾いに汗を流す参加者たち

## 出来秋に期待 生産者を督励

5/14  
木造地区



ハンドルから手を離し自動操舵を体験する倉光市長

稲作農家の生産意欲の高揚を図ろうと、倉光市長はじめ西北地域県民局、農協関係者などが、田植え作業中の生産者を督励しました。

この日一行は、木造地区の三橋将也さんと鎌田真彰さんを訪問し、順調に作業が進んでいることを確認。田植後も天気に合わせて適切に水管理するよう呼び掛けました。

現地では、誤差数cmの精度が確保できる市の電波（RTK-GNSS固定基地局の信号）を利用したスマート農機で、高精度な田植えも体験。

「青天の霹靂」や「はれわり」を作付けしている鎌田さんは「今年は青天の霹靂の特A復活を目指して、皆さんに喜んでもらえるようなコメを作りたい」と話し、倉光市長も「コメ作りの中で今が一番忙しい時期。良い天候で、良いコメが収穫されることを期待しています。」と激励していました。